

カセットデッキK650

カセットデッキ5台中2番目はヤマハのオートリバースK650です。30年位前に購入した物ですが、購入動機はエアチェックをする時長時間番組で切れ目が出来ない事と、Spec上20kHzぐらいまで伸びている事が理由だったと思います。今回、キャプstanは回っていましたがロジック部の電気系ではないかと勝手に推測、上蓋を外しました。



上蓋を開け、前面パネルを外し、操作ボタン類の基板ブロックを外します。

回路を目視確認しているとメイン基板上の電源用電解コンデンサを固定しているポイントが変色している箇所を発見。



底蓋を外します。

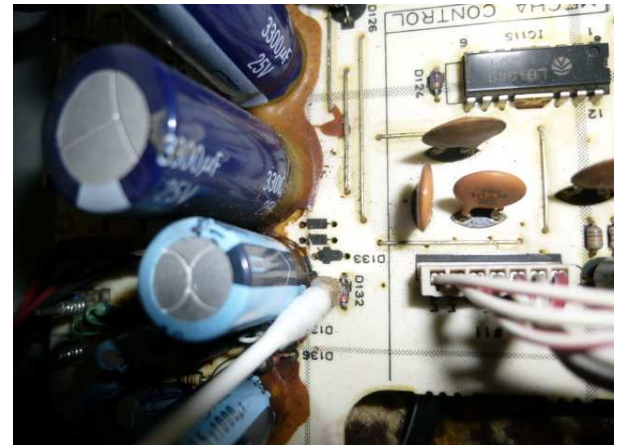
該当部品の半田付け箇所を観測、ハンダ表面が異常に白く変色していました。真ん中あたりの抵抗の左側ですが、電流過熱による抵抗破損です。



抵抗値をチェック。

1kΩ ⇒ 10kΩ  
10kΩ ⇒ 30-50kΩ  
現役の頃、落下試験で電解コンデンサの基板ハンダクラックで悩まされましたが抵抗を覆うことはご法度でした。

抵抗2本を交換します



ヘッド、キャプstan、ピンチローラをエタノール清掃しある程度逆組み付けをしたところでテープを入れ音だし確認しますと動きました

チェック、測定後半日エイジング。



修理してみれば、簡単なことですが、原因を探し不良箇所を特定するまでの作業は、笑い話のような経過ばかりです。でも、オーディオも消耗品ですから、こうして修理して使い続けることもオーディオの楽しみ方の一つです。